

1 「用言の種類と性質」 次の文章の [ ] にあてはまる言葉を、それぞれあとから選びなさい。(同じ記号には、同じ言葉があてはまります。)

用い方によって語の形が変わることを活用といいます。

活用し、それだけで述語になることのできる単語を [A] といい、 [A]

には、 [B]・[C]・[D] の三つがあります。

[B] は、「言う・静まる・いる」などのように、「どうする・どうなる・

あるへ動作・作用・存在」を表し、言い切るときは、ウ段の音で終わります。

[C] は、「からい・やさしい」などのように、「どんなだへ性質・状態」

を表し、言い切るときは「い」で終わります。

[D] は、「完全だ(完全です)・きれいだ(きれいです)」などのように、「

どんなだへ性質・状態」を表し、言い切るときは、「だ・です」で終わります。

ア 体言 イ 用言 ウ 形容詞

エ 動詞 オ 形容動詞

- (A) ( ) (B) ( )  
(C) ( ) (D) ( )

2 「動詞の活用の種類」 次の動詞の活用の種類を、活用例を参考にして、そ

れぞれあとから選びなさい。

(1) 行く

行かない・行こう・行きます・行く・行くこと・行けば・行け

(2) 来る

こない・きます・くる・くるくる・くれ・こい

(3) 生きる

生かない・生きます・生きる・生きる・生きれば・生きろ・生きよ

(4) する

しない・される・せぬ・します・する・すれば・しろ・せよ

(5) 駆ける

駆けない・駆けます・駆ける・駆ける・駆ければ・駆けろ・駆けよ

ア 五段活用

エ サ行変格活用

イ 上一段活用

ウ 下一段活用

オ カ行変格活用

3 「動詞の活用形」 次の活用形の説明として正しいものを、それぞれあと

から選びなさい。

(1) 未然形 ( )

(3) 終止形 ( )

(5) 仮定形 ( )

ア 「は」に続く形。

イ 体言や「の・ので・のに」などに続く形。

ウ 助動詞の「ない・う・れる・せる」などに続く形。

エ 言い切る形。また、「と・から・けれど」などに続く形。

オ 命令の形で言い切る形。

カ 用言や「ます・た・て」などに続く形。

(2) 連用形 ( )

(4) 連体形 ( )

(6) 命令形 ( )

(1) ( )

(2) ( )

(3) ( )

(4) ( )

(5) ( )

(6) ( )